

日本工学院専門学校		開講年度	2019年度		科目名	演習1	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	全コース		開設期	前期
対象年次	1 年次		科目区分	必修		時間数	60時間
単位数	2単位					授業形態	演習
教科書/教材	参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	川澄 伸一			実務経験の有無・職種	有・レコーディングエンジニア		
学習目的							
実習の予習・復習にあたる。スタジオにおける様々な機器を操作する実習でうわべの手順を追うだけでは無く、信号の流れと音声信号の変化を理解することで、機材トラブルへの対処や応用操作が可能になる。本校ではアナログをはじめデジタルミキサーまで様々なタイプのミキサー卓が設置されているが、基本はアナログ的な信号の流れを理解することにより、メーカーや機種が異なってもオペレートが可能となる。操作とその意味をしっかりとイメージできるようにすることを目的とする。							
到達目標							
ポータブルミキサーを使いながらミキサー卓の音声信号（電気信号）の流れを理解する。入力された音声信号が増幅、分流、減衰などを行いながら出力されている事を把握する。また、操作卓各所の名称も覚え、音響業界用語も幅広く理解していく。ミキサー卓へ接続するマイクロフォン、パワーアンプ、スピーカーについても、それぞれの役割を同時に理解していく。特にマイクロフォンはダイナミック、コンデンサーともに現場で多用されている物の特徴と名称も取り扱いと共に覚えることを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	自分で完成させるワークタイプのプリント資料を配付。この講義は実習と連動した科目である。実際のスタジオワークの手順、ミキサー卓の操作などを理論立てて理解し、実習を効率よく実施するための予備知識や復習となる。音の流れと電気の流れをイメージしやすくしておくことにより、音が出ないなどのトラブルにも素早く正しく対応できるようになることを目指す。項目によっては班ごとに順番を入れ替えることもある。						
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。 公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。 授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト						
	レポート	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 （口頭・実技）	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	マイクケーブル			半田ごての使い方をマスターし、今後も使う自分用のケーブルを製作できる			
2 回	マイクロフォン・スタジオ概要			基本的なマイクロフォンの種類、扱い方がわかる。スタジオの構造と各機器の役割を理解する。また正しい電源の入れ方もできる			
3 回	外録機材・操作			レコーダーの使い方とマイクを適切に使うことができる			
4 回	各機器の立ち上げ			スタジオでマイクロフォンやCDなどの音源を試聴するための操作ができる			
5 回	ミキシングコンソール1			ポータブルミキサーへマイクなどの接続、立ち上げができる			
6 回	ミキシングコンソール2			ポータブルミキサーを使ったPAができる。ハウリングを防げる			
7 回	ミキシングコンソール3			ポータブルミキサー・AUX回路のしくみわかる			
8 回	ミキシングコンソール4			前半のまとめ、チェックをし、ミキサーの基本がわかる			
9 回	音響の仕事1			スタジオワーク、スタジオで働くための基本知識がわかる			
1 0 回	ミキシングコンソール5			SSLの操作1 各種音源の立ち上げ、IO関連がわかる			
1 1 回	ミキシングコンソール6			SSLの操作2 モニター、出演者へのFBの操作ができる			
1 2 回	マイクロフォン			代表的なマイクロフォンの把握、小テスト（グレード5）			
1 3 回	ミキシングコンソール7			SSLの操作3 バスをつかった外部機器への接続ができる			
1 4 回	音響の仕事2			専攻選択の参考として音響関連の仕事がわかる			
1 5 回	前期まとめ			ミキサー卓全般。ブロックダイアグラムが読める			